

香川大学看護学雑誌創刊25周年記念特集

香川大学医学部看護学科における看護学研究の25年

「香川大学看護学雑誌」25周年記念編集委員
慢性期成人看護学 清水 裕子

特集の趣旨

平成8(1996)年に香川医科大学で看護学教育が始まり、看護学の教育研究活動が始動した。令和2(2020)年、香川大学大学院医学系研究科看護学専攻は、開設20年目を迎え、その研究成果の発表の場となっている「香川大学看護学雑誌」は創刊から25年目を迎えた。これまでの25年間に看護学雑誌を通して蓄積した所産を振り返り、本誌の役割と看護学研究の今後を考えたいと思う。

看護学科が開設して10年目、平成18(2006)年には盛大な10周年記念行事が開催され、10周年記念誌が発行された。20年目を迎えるにあたり、平成26(2014)年度の看護学科会議において、20周年記念行事の計画はなされたが、次年度にその計画は流れた。

令和4(2022)年度の博士後期課程開設を進める中、既に開設当初からの学科運営を知る人も殆どいない。先人のご苦勞と不断の努力をここに記しおきたいとの思いから特集記事の作成に至った。

【寄稿】香川大学医学部看護学科開設25周年によせて

香川大学医学部長
上田 夏生

香川大学医学部は、昭和53(1978)年に香川医科大学として創設され、平成15(2003)年に旧香川大学と統合して現在の形になりました。医学科と看護学科に加え、平成30(2018)年に臨床心理学科を開設して3学科体制となり、現在に至っています。

看護学科は平成8(1996)年に看護学に関する教育・研究を行うことを目的として設置されました。令和元(2019)年度末で、同学科卒業生は1,388名を数えます。入学後の選択により養護教諭一種の免許を取得することができます。保健師課程も設置していましたが、看護、社会の変革に対応する実践能力を備えた保健師育成を目指すため、令和元年度入学生をもって終了し、今後は大学院修士課程で養成する準備を進めているところです。

大学院につきましては、医学系研究科看護学専攻(修士課程)が平成12(2000)年に設置されました。令和2(2020)年9月末までで、173名が同専攻を修了しています。令和2(2020)年には同専攻に助産学コースを開設し、修士課程で助産師の養成を開始しました。また、同専攻に博士後期課程を設置する計画を進めています。

開設25周年を迎え、本学科はこれまで以上に質の高い看護専門職者の育成が求められています。「人生100年時代」が決して誇張ではない長寿社会を迎えるにあたり、看護の役割は拡大されつつあり、社会の変化に柔軟に対応できる能力が必要とされています。特に、学生の間国際的な視野を持ち多様な価値観を理解することや、多職種連携を学び、地域の保健医療の向上への関心を高めることがますます重要になっています。また、全国に看護系大学、学部が続々と誕生する中で、看護学の教育・研究者の養成も大切な使命です。看護学の研究の発展に向け、医学科・臨床心理学科・附属病院さらには他学部等との共同研究の推進がいつそう期待されます。

関係者の皆様にはこれまでの御支援御協力に感謝申し上げますとともに、今後とも引き続き御支援賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。